

側弯症とは何か？

☆側弯症とは何でしょうか？

背骨は、たくさんの背骨（脊椎）が積み合わさってできています。それぞれ首の部分を頸椎（7個）、胸の部分を胸椎（12個）、腰の部分を腰椎（5個）、お尻の部分を仙骨、尾骨といいます。

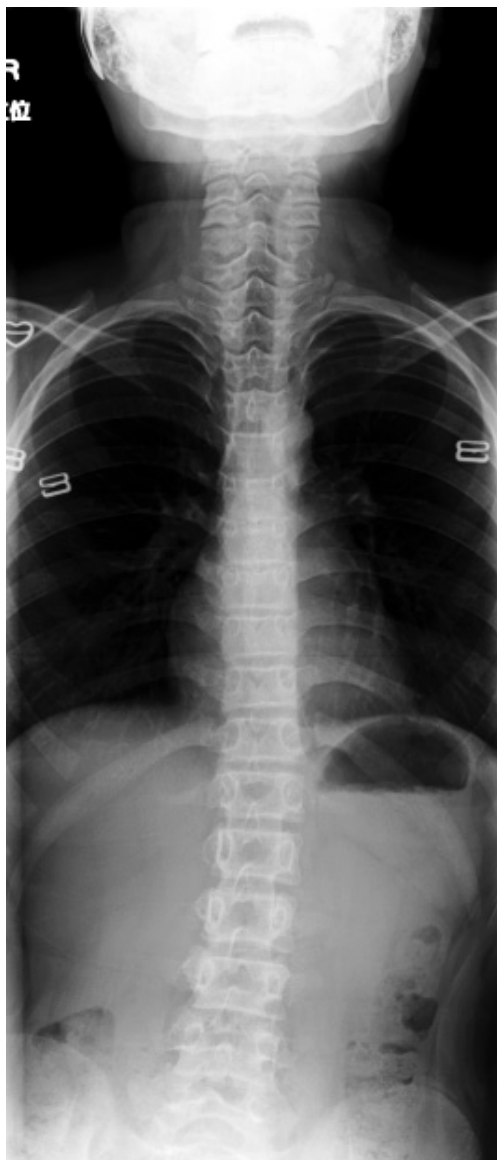
背骨を正面から見ると、背骨はまっすぐになっていますが、側弯症とは背骨がねじれを伴って横に曲がってしまう疾患です。



☆原因は何ですか？

側弯症は、①姿勢や左右の脚の長さの違い、腰痛などの原因で生じる「機能性側弯症」と、②それ以外の「構築性側弯症」に大別されます。「①機能性側弯症」は、背骨の曲がり方の程度は軽く、原因を取り除くことによって側弯は消失します。

一般的に、「側弯症」というと②の「構築性側弯症」を指します。「構築性側弯症」は、原因が特定されていない「特発性側弯症」と、他の疾患に伴う側弯症（生まれつきの側弯症、神経や筋肉の病気に伴う側弯症）に大別され、「側弯症」の80%は、「特発性側弯症」に分類されます（中でも「思春期側弯症」の事が多い）。最近では、遺伝子に関する研究が盛んに進められてきていますが、未だ治療に直結するような原因は特定されていません。



脚長不等（左右の脚の長さの違い）による機能性側弯症。足底板で左右の脚の長さを整えると側弯は消失する。

☆「側弯症」の人はどれ位いるのですか？

100人いれば2～3人は側弯症の方がいるといわれています。しかし、実際に治療の介入が必要な方は限られています。成人した後に職場健診などでレントゲンを撮影し、偶然指摘されるという事も少なくありません。

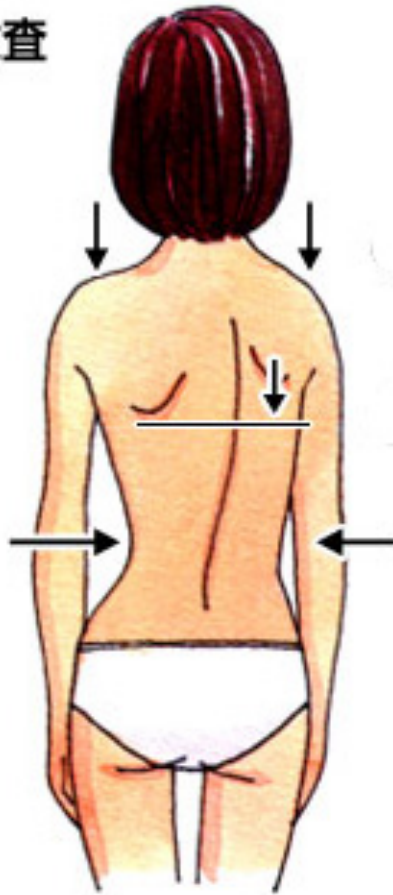
☆診断はどのようになされるのですか？

側弯症の診断は、医療機関を受診し、レントゲン検査を行ってもらう必要があります。医療機関を受診した方がよいかどうかを判断するのが、健診です（「スクリーニング検

査」といいます)。

学校検診では、まず後ろ向きに気をつけの姿勢でまっすぐ立ってもらい、肩の高さ、肩甲骨(背中の出っ張りのある骨)、ウエストラインに左右差があるかどうか確認します(立位検査といいます)。その後、まっすぐ前かがみになってもらい、背中の高さが左右対称となっているか確認します(前屈検査といいます)。左右、非対称となっている場合には「側弯症の疑い」として、お医者さん(整形外科)への受診を指示されます。

立位検査



前屈検査



学校検診でチェックするポイント

- ・肩の高さの違い
- ・肩甲骨の高さの違い
- ・ウエストラインの左右差
- ・前屈時の肋骨隆起の左右差